

2015 年度 小委員会活動成果報告

(2016 年 2 月 12 日作成)

小委員会名	照明の省エネルギー評価小委員会		主 査 名：岩田 利枝 就任年月：2015 年 5 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (光環境運営委員会)		委員長名：羽山 広文 主 査 名：明石 行生
設 置 期 間	2015 年 4 月 ～ 2017 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・照明の省エネルギー性能について統一的に評価する手法を検討する ・照明の省エネ実践例について評価、各種手法の効果を比較検証する 		
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：有		
	主査：岩田利枝 (東海大学) 幹事：伊藤大輔 (ものづくり大学)、望月悦子 (千葉工業大学) 委員：市原真希 (大成建設株式会社)、加藤元紀 (日建設計)、加藤未佳 (金沢工業大学)、 小島義包 (大林組)、杉鉄也 (竹中工務店)、中村芳樹 (東京工業大学)、三木保弘 (建築研究所)、向健二 (パナソニック)、山口秀樹 (国土技術政策総合研究所)		
設置 WG (WG 名：目的)			
2015 年度予算	51,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価
委員会開催数	3 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	なし
講習会	参加者数 名
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	なし
大会研究集会	なし
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	なし
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	1. 改正省エネルギー基準ならびに日本建築学会環境規準『照明環境規準』(予 定)の内容について情報共有した 2. 本小委員会の成果に求めることについて議論し、今後の活動方針を定めた
委員会活動の問題点 ・課題	1. 傘下に 2 つの WG「照明の省エネ評価手法検討 WG」「照明の省エネ実践事 例のデータ収集 WG」を設置する予定であったが、並行して行う方が効率が良い 面があり、当面、全体で進行することとした。

2015 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A	B	C	D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>活動計画では傘下に 2 つの WG「照明の省エネ評価手法検討 WG」「照明の省エネ実践事例のデータ収集 WG」を設置する予定であったが、現状の照明の省エネルギーの進行状態から考えて、同時並行して行う方が効率が良いと判断して、全体で活動することにした。</p> <p>全体としては、現行の省エネに関わる基準類と照明の省エネルギーの現状についての情報を整理し、今後の活動方針を定めている。</p> <p>具体的には現行の省エネに関わる基準類については、「改正省エネルギー基準」ならびに「日本建築学会環境規準『照明環境規準』(予定)」の内容について情報を共有し、現状については最先端の事例についての話題提供を中心に、本小委員会の成果に求めることについて議論している。</p> <p>これらより総合評価を B (設置目標の 75%程度) と判断した。</p>			

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価 (シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など) に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。